

病院広報誌

わ げ ん あ い ご
和顔愛語

医療法人 真生会
真生会富山病院
SHINSEIKAI TOYAMA HOSPITAL

2015
vol,20

発刊 20 号記念リニューアル版

特集 1

透析室拡張オープン

特集 2

感染管理認定看護師の誕生



特集1 透析室拡張オープン

射水市の中核病院として透析医療を担う



平成27年10月、透析室を10床から15床に拡張し、より多くの透析患者さんを受け入れることができるようになりました。担当の二村明広副院長（腎臓内科医師）にインタビューを行いました。

Q、透析室が増床になった経緯を教えてください。

A、現在、日本には31万人の透析患者さんがいると言われていています。富山県の人口で換算すると、射水市には200人という計算になります。射水市内で透析ができる施設は射水市民病院と真生会富山病院しかなく、富山市や高岡市で治療を受けている方が多く見えます。

透析治療は通常週3回、しかも盆も正月も関係なく受けなければなりません。病気が方が市外へ通わなければならないというのは大変なことで、多くの方が近くで治療を受けたいと願っています。

おられることは間違いないと思います。そこで、少しでも多くの患者さんを受け入れられるように準備をすすめ、ようやく今年の10月から開始することができました。

Q、当院ではどのような透析治療が受けられるのでしょうか。

A、増床に伴い、これまでできなかった血液ろ過透析（HDF）にも対応できる透析器を導入しました。血液ろ過透析は、特に透析中の症状が強い患者さんには合併症のある方も多く、足、耳、皮膚など全身に疾患を持っておられる場合があります。その点、透析だけでなく総合的に治療できるところは当院の強みであると思います。また、夜中に何かあった場合も24時間対応していますので、ご安心ください。当院は訪問診療や全科往診も行っています。

Q、なぜ腎臓・透析専門医になろうと思ったのでしょうか。

A、最初に研修医で入ったのは、心臓と腎臓の両方を専門にしている科でした。心筋梗塞を起こされた方が治るか治らないかは、尿が出るかどうかで変わってきます。尿が出ると心臓のむくみがとれて楽になります。そのため薬を使ったりするのですが、いくらか薬を使ってもむくみがとれない患者さんに、腎臓専門医が透析器を持ってきて、透析治療によって患者さんがずっと楽になりました。そのとき、心臓の限界を超えるのは腎臓の治療なのだなと、大変印象に残りました。腎臓専門医の道を進もうと思うきっかけになった出来事でした。

Q、最後に、患者さんへのメッセージをお願いします。

A、高齢社会では、通院がますます問題になってきます。近くに住む患者さんにはできるだけ真生会で受け入れ、病気になる前の段階から予防や指導という点でも積極的に関わっていきたいと思います。



15床に増床された透析室



新たに導入された血液ろ過透析の機器



透析スタッフ

ふたむら あきひろ
二村 明広 医師 プロフィール
 富山医科薬科大学（現：富山大学）卒。富山医科薬科大学第二内科を経て、平成12年4月に当院へ赴任。現在は副院長、腎臓内科部長、臨床工学科科長を務める。専門は腎臓・循環器疾患、腎炎・ネフローゼ疾患、透析治療。
 （資格・認定・所属学会）
 医学博士、透析学会専門医、腎臓病学会専門医、日本内科学会認定内科医、認知症ケア指導管理士

特集2

感染管理認定看護師の誕生

外来・中央手術室の副主任であり、感染対策室の副室長も兼任する

梅田加洋子看護師が感染管理認定看護師に合格。射水市の医療機関で初、

当院では緩和ケア認定看護師の長久栄子看護師（緩和ケア内科）に次い

で二人目の認定看護師です。今後の活動について、インタビューしました。



Q、このたびは合格おめでとうございます。合格を知ったときはどんな気持ちでしたか？

A、うれしかったです。過去問で勉強していましたが、当日の試験は違う傾向の問題が出て、まったく自信がありませんでした。ですから、合格発表を聞いた時は本当に目の前がパッと明るくなりました。今までにいろいろな試験を受けましたが、今回が一番うれしかったです。

Q、これまでも院内感染対策委員会の活動や、感染対策講習会で講師を務める（下の写真）など、感染予防や対策に関わってこられましたか、いつ頃から学び始めたのでしょうか。

もありますが、以前から感染管理認定看護師という資格があることは知っていて、興味がありました。しかし、感染管理認定看護師教育課程を受講できる施設は遠方にしかなく、自分が行くことは不可能だと考え、自分より若い世代に道を開きたいと思っていました。そんな時、石川県で開校されると知り、「今を逃したら、もうチャンスはない」と決意し、準備期間を経て昨年7ヶ月間、石川県立看護大学の看護キャリア支援センターで学んできました。

Q、学生生活はいかがでしたか？

A、授業は大学の教室で行われ、90分の授業が午前2コマ、午後2〜3コマありました。30人のクラスで、28歳から54歳という幅広い年齢層でした。北陸出身者が多かったですが、関西圏から来ている人もありました。男性も4人いました。どうしても年が近い人同士でくっついてしまう傾向がありますが、授業はグループワークが多く、毎回くじ引きでメンバーが決められていたので、いろいろな人の話を聞けたことがよかったです。飲み会などの企画も楽しかったです（笑）。

Q、最後に、今後の抱負を聞かせてください。

A、真生会富山病院の2018年ビジョンの一番目に、「射水市を住みよい街とするために」とあります。感染管理は病院の中だけのものではありません。地域の医療を守るためにも必要です。地域の皆さんに元気でいていただくためには、まず、病気にかからないようにすることが大切です。現在、射水市の病院で感染管理認定看護師は他にいませんので、感染予防について自分が発信していかなければ、という思いもあります。もちろん自分一人ですることではありませんので、まずは院内に感染管理の意識が定着するよう、感染対策講習会などで手洗いや消毒について伝えていきたいと思えます。そして職員からその家族へ、さらに地域へと、その意識が広まっていけば、射水市の皆さんの健康を支えるお力添えができるのではないかと思います。感染管理認定看護師の資格を取得したことで、幅広い知識を持ち、根拠のある指導を行っていきます。



院内感染対策委員会では副委員長を務める

A、看護師になったばかりの頃は手術室に配属され、その後は内視鏡室で主に勤務してきました。感染管理に深く関わるようになったのは真生会に來てからです。感染管理について学んでいくと、以前は、看護業務の中で感染防止、予防に関する行動が正しくできていなかったり、必要性をしっかりと考えたりすることがなかったように思います。しかし、真生会で感染管理に携わるようになってからその必要性・重要性を知ることができました。

Q、認定看護師を目指そうと思ったきっかけを教えてください。

A、上司に勧められたからという理由

「今を逃したら、もうチャンスはない」と決意して

最期まで患者を側で支える医師であり続けるために

「緩和ケア合宿」を開催

8月20、21日の二日間、緩和ケア合宿が開催されました。「将来臨床医を目指す学生・研修医が、最期まで患者を側で支える医師であり続けるために必要な姿勢と心得を学んでもらいたい」との思いから、研修医と緩和ケア内科のスタッフによって企画されたものです。

参加者は関東から参加の今村さんと関西から参加の飛松さんの二人。初日は在宅緩和ケアカンファレンスから始まり、河相科長の外来見学、抗がん剤治療患者との対話、入院患者カンファレンス、緩和ケア認定看護師である長久副科長のレクチャー、河相科長の往診への同行。二日目は古谷先生の外来見学とレクチャーで、盛りだくさんの内容で緩和ケアに触れました。

参加者とスタッフの感想を紹介し
ます。

【参加者の感想】

（飛松さん）
今まで緩和ケアをあまり知りませんでした。今回の合宿で二日間学び、今まで知っている医療と違っていたので興味を持ちました。自分が接した



は、がんの治療を受けている方ばかりでしたが、元気に仕事をされ、笑顔も見せておられました。そんなふうに普通に生活されているのがすごいと思いました。これが先生方のケアの結果なのかと驚きました。大学には研究者を目指す人も多いですが、自分は臨床医になると決めています。今回、患者の苦しみに意識を向けて話を聞くことが一番のポイントであると教わりまし

た。患者と向き合って信頼関係を築いていくような医師になりたいと思います。

（今村さん）

初めて富山県にきました。急性期で緩和ケアをしているこんな病院があるんだと、今回の企画を通して知りました。合宿で経験したことは、想像していたこと、いわゆる「終末期医療」とはだいぶ違いました。河相先生の往診に同行して真生会から車で10分のお宅へ伺い、この街全体が病院で、各家庭が病室のようだと感じました。また、患者さんは自分の家が好きなんだということを実感しました。今後、医師を目指すうえで、距離感のつかみ方を考えながら、やっていきたいです。それには経験を積んでいくことが必要



外来見学

だと感じています。河相先生のようなユーモアを持ち合わせ、長久看護師のように強くてやさしい医師になりたいと思います。緩和ケアをやりたくて医師を目指しましたが、その気持ちは今も変わりません。

（古谷医師より）



私の外来では全身にがんの転移がありながら、笑顔で生き生きと仕事をされている患者さん達の診察を見学してもらいました。薬剤をうまく使うことによってがんの痛みを楽にし、スピリチュアルケアもしていくという真生会富山病院ならではの緩和ケアの臨床を实地に経験され、得られたものが多かったのではないかと思います。

（河相医師より）

大学の講義や臨床実習では学べな

研修医より一言

医師になったら、医療技術や知識は年齢や経験を積みある程度身についていきます。患者さんや家族との接し方は医療において大事な部分ですが、漫然と過ごして身につくものではないと思います。その点、今回の合宿で患者さんとの対話や傾聴などを学べたのは貴重な経験だと思うので、これから活かして行ってもらいたいです。(研修医 横山敏啓)



往診へ出発

い、緩和ケアの臨床現場に触れてもらうことができました。医師だけでなく様々な職種がチームを組んで、患者と家族を支えていること、患者と家族の気がかり・苦しみに、チーム全員の意識が向けられていることに驚いたようです。高齢のがん患者が、自らの想いを語られ、主体的に治療法を選択してゆかれる姿に、がん診療や緩和ケアのイメージが大きく変わったのではないのでしょうか。夕方は、3日前に退院したばかりの寝たきりのがん患者宅を訪問しました。我が家に戻って症状も緩和された笑顔の患者と、生きていてくれればそれだけで嬉しいと喜ぶ奥さんの姿に接し、同時に、全科往診・24時間訪問看護対応で在宅療養を支える当院の診療体制にも、感動していたようです。疾病の治療や症状緩和だけが医師の仕事ではない。治療の限界を超えて、患者とその家族の苦しみを和らげ、生きる意味を支えるのが緩和ケアです。その緩和ケアの仕事の豊かな意味と深い喜びの一端を感じてもらえたと思います。これからも、若き医学生を応援してゆきたい。

緩和ケア認定看護師より一言

日帰り治療に通っておられるがん患者さんから、仕事ができる喜びや家族への感謝の言葉など生の言葉が語られ、私たちが講義をする以上の影響を参加者に与えたのではないかと思います。



ながひさ 栄子
長久 栄子
(緩和ケア内科 副科長)



訪問看護ステーションところでカンファレンス



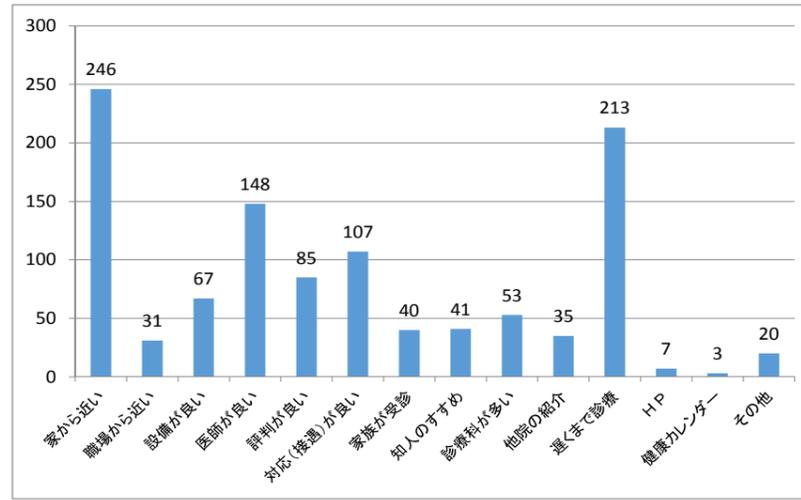
お知らせ

外来満足度調査の結果

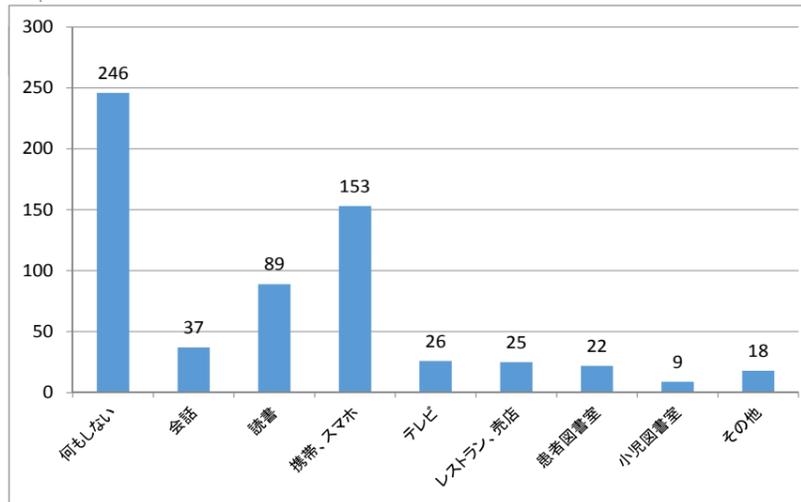
平成27年8月、外来患者さんを対象に満足度調査のアンケートを行いました。多くの方にご協力いただき、ありがとうございました。560人の方から回答をいただきました。アンケート結果を今後の診療に活かし、改善につなげてまいります。



1、当院を選ばれた理由



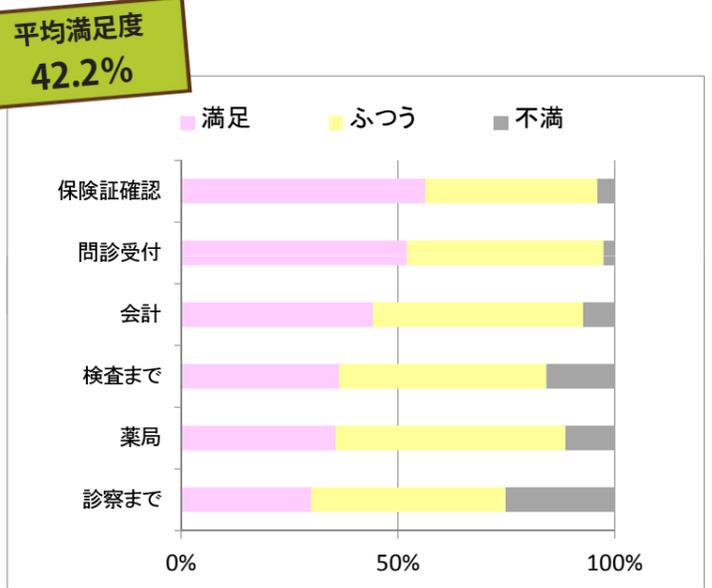
2、待ち時間について



3、満足度について

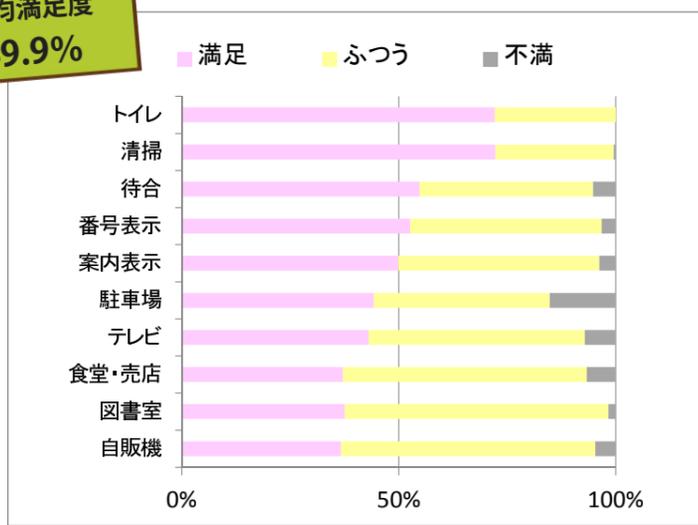
満足度調査は、満足、ほぼ満足、ふつう、やや不満、不満の5段階評価で行いました。結果のグラフは、満足とほぼ満足を「満足」、やや不満と不満を「不満」としました。

(待ち時間について)



保険証確認が最も満足度が高く56%、診察までが最も低く30%でした。

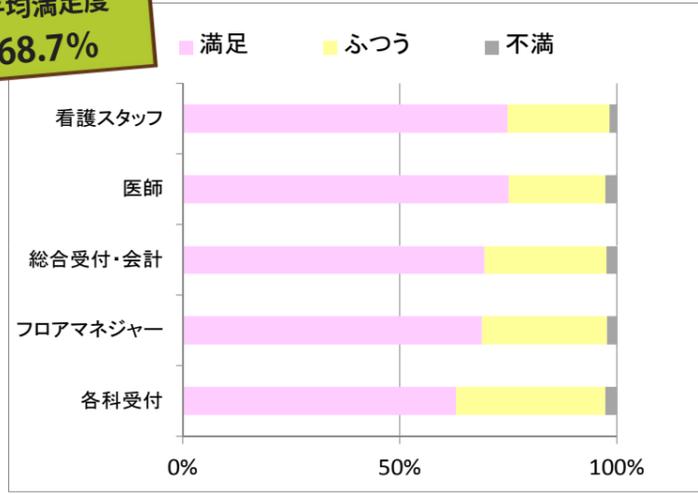
(施設・設備について)



平均満足度 49.9%

トイレに対する満足度が最も高く、「不満」と答えられた方はありませんでした。駐車場に対する満足度は44%と最も低く、院内のご意見箱にも多くのご意見をいただいています。

(スタッフの対応について)



平均満足度 68.7%

スタッフの対応については、上位5職種を掲載しています。看護スタッフに対する満足度が最も高く、78%でした。すべての職種が昨年の満足度を上回っていました。

満足度調査でいただいたご意見とその回答

<p>【ご意見】 検査等で採血することが多いが、データ等、本人に知らされることがほとんどない。良くても悪くても知りたい。</p> <p>【回答】 ご意見ありがとうございます。今後は、採血の結果は印刷して、その都度お渡しするようにいたします。</p>	<p>【ご意見】 MRIの時、不安なのであと何分でおわりますと教えてほしい。</p> <p>【回答】 行っている人と行っていない人がありました。スタッフ全員に、残り時間のアナウンスをするよう伝えました。(中央放射線科)</p>	<p>【ご意見】 医師はこちらを向いてゆっくりやさしくはっきりとした口調で説明してほしい。</p> <p>【回答】 医師は自分がどのような言い方をしているか、よく分かっていない点があります。そのようなことがあれば、具体的に教えて頂きたいと思います。(医局長)</p>
--	---	---

平成27年の待ち時間調査、満足度調査でいただいたご意見に対する回答は、院内の待合掲示板に一部、掲示しております。また、院内4箇所に設置したファイルと、当院のホームページにてご覧いただけます。



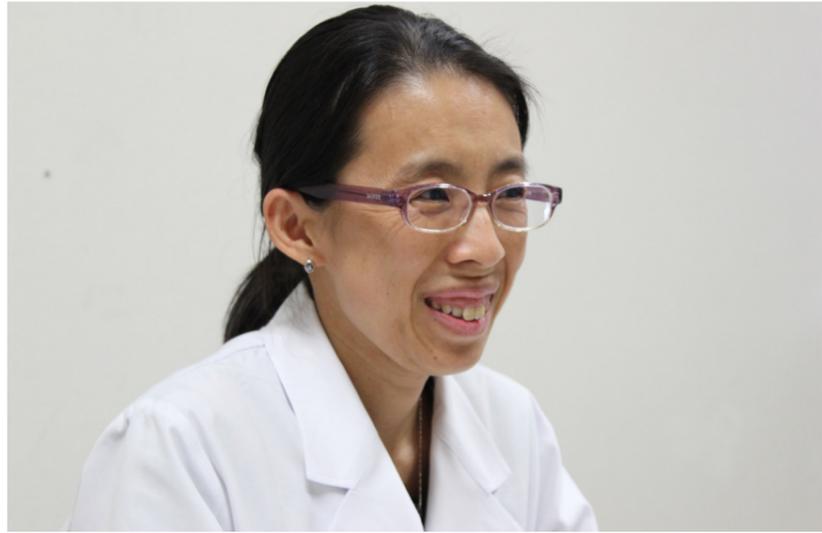
中国との医療交流が本格的にスタート



朱 洪麗 先生

（瀋陽市第四人民医院）

来日



10月7日（水）より、瀋陽市第四人民医院（中国・遼寧省瀋陽市）から眼科の朱洪麗医師が研修に来られています。当院アイセンターにて館奈保子アイセンター長の外来と手術の見学を中心に、白内障、緑内障、眼底の病気について学びます。

瀋陽出身の朱先生は、眼科医師になって15年。中国医科大学で日本語を勉強していたため、日本での生活は、日常会話にさほど支障はないとのこと。館アイセンター長の高い技術に触れて、「館先生は眼科のさまざまな分野に造詣が深く、優しい方。質の高い医療技術を学び、中国でも活かしたい」と語っておられます。

館アイセンター長は、「真生会で、苦悩の根本から治療する、ということをも身につけてもらいたい。技術的には県内外から眼科のトップクラスの医師がこのアイセンターに非常勤医師として来られているので、多めに学んでもらいたい」と期待を寄せています。

10月13日（火）には北日本新聞の取材を受け、15日の朝刊に紹介記事が掲載されました。



診察室にて



休日、白川郷に行ってきました

シェフの直伝レシピ！

元・名鉄富山ホテル（現・ホテルグランテラス富山）にある名門中華料理店、「福寿林」で総料理長を務めていたシェフが、現在は当院のレストラン「グリーンハット」で腕を振るっています。シェフ自らが調理を担当することもありますが、主に他のスタッフへ料理の指導にあたっています。

シェフが勤務する日には、特製の中華おかずが入った弁当が販売されることもあります。（数量限定）
そのシェフによる料理教室が、職員



滑炒魚片（魚と野菜のケチャップ炒め） ～2人分～

（材料）		（調味料）	
白身魚…………… 150g		ガラスープ…………… 250cc	
玉ねぎ… 2分の1個		砂糖…………… 大きじ1	
にんじん…………… 30g		酒…………… 小さじ1	
青み（きぬさやなど）30g		塩…………… 小さじ2分の1	
しめじ…………… 30g		コショウ…………… 少々	
卵…………… 2分の1個		ケチャップ… 大きじ2	
長ねぎ…………… 少量			
生姜…………… 少量		（魚の下味用）	
片栗粉…………… 適量		酒…………… 少量	
		塩…………… 少々	
		卵…………… 2分の1個	
		コショウ…………… 少々	
		片栗粉…………… 大きじ2	

- （作り方）
1. 魚は3枚におろして骨を取り、適当な大きさに切る
 2. 玉ねぎはくし形に切る
 3. にんじんは適当な形に切ってボイルする
 4. 青みとしめじもバラバラにほぐしてボイルする
 5. 長ねぎと生姜をみじん切りにする
 6. 切った魚を下味に漬けて油で揚げる
 7. フライパンに油を入れて熱し、その中に5.を入れて炒め、さらに野菜を入れて炒め、さらに各調味料を入れて、その中に揚げた魚を入れて炒めた後、水溶き片栗粉で仕上げる

とその友人・知人を対象に開催されています。麻婆豆腐、エビチリなど、中華の定番メニューをシェフ直々に教わることができるため、毎回大好評です。10月31日（土）の料理教室では、魚と野菜のケチャップ炒め、シュウマイ、さつまいものあめがけの三品を作りました。「作り方の手本をわかりやすく、おもしろく教えてくださるので、調味料の量やタイミングがよくわかった」「シュウマイを一から作るの初めてでしたが、これで家でも美味しいシュウ

マイが作れそうです。干貝柱の戻し汁や生姜水（ネギと生姜を入れて香りをつけた水）の風味がきいていました」などの感想が聞かれました。
レストラン「グリーンハット」では国内産の食材と有機栽培の野菜やお米を使用し、安全・安心にこだわっております。また、併設の売店では、旬の野菜や季節限定の商品もご用意しています。ご来院の際には、ぜひお立ち寄りください。

レストラン グリーンハット

【営業時間】
（月～金）8:30～19:30 ラストオーダー 19:00
（土）8:30～14:00 ラストオーダー 13:30

【定休日】
日曜日、祝日

※レストラン横に売店が併設されています。

診療案内

診療科

内科、外科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科、麻酔科、心療内科、精神科、神経内科、放射線科、泌尿器科、消化器内科、呼吸器内科、リハビリテーション科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、真生会デンタルクリニック（歯科）

受付・診療時間

【午前外来】平日・土曜日

受付 8:00～11:30

（各科窓口 8:30～ 診察 9:00～）

※午前のみ、7:30～整理券を配布

正面玄関の解錠時間は7:30です。

診療時間以外は、時間外出入り口をご利用ください。

【昼外来】アイセンター（眼科のみ）

受付 13:30～16:00（診察 14:00～）

※平日 火・木曜日のみ受付です。

【夕方外来】平日

受付 16:00～19:00

（各科窓口 16:30～ 診察 17:00～）

※内科を除き、火・木の夕方は休診のため日直医が対応いたします。

※皮膚科と小児科の窓口受付は 16:15 から、診察は 16:30 から行います。

【休診日】日曜日、祝日、土曜日午後

休診時間帯は、当番医師が待機しております。

診療体制

24時間救急診療、全科往診

在宅診療、人工透析

人間ドック、眼科ドック

保険証は、毎月提示をお願いしています。
必ずお持ちください。

一度は行きたい！

地元のお店



海の家を思わせる外観

海の駅
Sazan（サザン）
今年7月、射水市海竜新町にオープンした「Sazan（サザン）」は、日本海と立山を望む海岸沿いにできた「海の駅」です。店内には売店と、海のカフェ・レストラン「ラ・メール」があります。ランチタイムにはパスタ

の他に、うどんやそばなどの麺類も豊富。ディナータイムでは地元の食材を使ったメニューを取り揃えています。昨年、世界で最も美しい湾の一つに選ばれた富山湾を眺めながらの食事は、リゾート地に来たような気分を味わえます。県外の人にも自慢したくなるような、富山の魅力が詰まった場所です。



明るい雰囲気店内。テラス席もあります。

アクセス

〒933-0222

富山県射水市海竜新町2番地

TEL 0766-75-8340

ランチメニュー
11:00～14:00

ティータイムメニュー
14:00～17:00

ディナーメニュー
17:00～22:00 (LO/21:00)

定休日：火曜日



パスタランチ。300円でデザートが付けられます。（写真はデザート付き）

編集後記

当院は今年、病院オープンから15周年の記念の年でした。その間、多くの患者さんとの出会いがありました。

平成16年に誕生したこの病院広報誌も、今号が第20号です。これからも安心と満足の医療サービスをお届けできるよう、職員一同、「和顔愛語」でお迎えいたします。

（広報課 M・S）